



創出するための「キャンプ場りニューアル計画」に取り組みます。さらに、自然を生かした素晴らしい観光地づくりをしていることを全国に発信し、観光交流客の増加を目指します。

牧之原市と合同で活動している御前崎港客船誘致協議会でも御前崎港への客船寄港を積極的に要請しています。秋には帆船「日本丸」の初寄港を予定しており、港のにぎわい創出が期待されます。

本市で生産・水揚げされる豊富な農水産物はレベルの高い食材として、注目されつつあります。これら御前崎ブランドの特産品を、首都圏をはじめ全国へPRすることにより、販路・消費拡大につなげます。

道の駅「風のマルシェ御前崎」もオープンから5年の節目を迎えます。平成29年度の利

用者も1月末日現在の11カ月で17万1663人と昨年度を2817人上回っています。農産物の販売を拡大するとともに交流人口の増加も目指します。

水産業は、御前崎港の冷凍・加工施設などの整備をはじめ、漁業関係団体と連携し、漁港機能の利便性向上と水産業活性化を支援します。さらに御前崎生かつおの水揚げ促進や駿河湾中西部地域の4市1町広域連携による、水産業活性化への支援を継続します。

市内立地企業への継続操業と成長支援のための「設備投資促進事業費補助金」を引き続き実施します。市外企業を積極的に訪問して情報を提供し、市への立地を呼び掛けます。従来の企業優遇制度や中小企業事業資金の利子補給制度なども継続し、既存企業の経営を支援すると

もに、電源地域としての優位性や御前崎港を活用した企業誘致を推進し、産業振興と働く場所の確保に努めます。

「郷土を愛し未来を創る人づくり」

学校教育は、「スクラム教育」の充実を図るとともに、コミュニティ・スクールを積極的に推進します。高い志をもった子どもへの育成と市への愛着を図るため、地域の教育力を活用したキャリア教育を展開します。

児童が安全で快適な環境で学校生活を送ることができるよう「小学校施設長寿命化計画」を策定するとともに、平成30年度は御前崎・白羽小学校のトイレを洋式化します。浜岡中学校校舎の改築は、地域や生徒、保護者の皆さんなどの声を大切にしながら、着実に進めます。

生涯学習の拠点である図書館は、市民ニーズに対応した情報提供とサービス向上に努めるとともに、子どもたちが読書に親しみ、感性豊かに成長できるように、子どもと本をつなぐ環境づくりを推進します。

地域における社会教育を推進するため、子育て世代の保護者への家庭教育支援に努めるとともに公民館事業を中心とした生涯学習を推進します。

文化協会や体育協会、振興公社などの団体と連携し、文化芸術とスポーツの振興に取り組みとともに、関連施設をより安全で快適に使えるよう計画的に改善します。

「市民とともに経営する自律したまち」

平成28年度から取り組んでい

るシティプロモーション事業は「シティプロモーション基本方針」に基づき、引き続き市民と地域、企業などと一緒になって本市の魅力の再確認や認知度をアップさせる情報を発信していきます。平成29年度までのワーキングショップでの提案をもとに、市民自らが実施するプロモーション活動を支援する補助制度を創設するとともに、地域おこし協力隊員を採用し、移住者の視点から市の魅力を掘り下げ、情報発信などに取り組み、交流人口増加を目指します。

新たに「御前崎市スポーツ振興プロジェクト」に挑戦します。本市の強みであるスポーツ環境を最大限に生かしたスポーツブランドづくりに企業や市民、各種団体、県内大学と取り組みます。これを既存産業の活性化や新たな産業の創出、雇用拡大につなげます。

市立病院は、医師や医療従事

者の慢性的な人不足が続き、大変厳しい状況です。市民の生命や健康を守るため、安定した医療の提供は必要不可欠です。このため、平成29年度に創設した「医師及び薬剤師就業支度金」や「医師紹介奨励金」、「薬剤師奨学金制度」を周知しつつ、既存制度と合わせて積極的に医療従事者確保に努めます。

昨年11月に開業した御前崎市家庭医療センター「しろわくりニック」は、地域の医療ニーズに応えるため、浜松医科大学や菊川市家庭医療センターと連携し、訪問診療の拡充や訪問リハビリテーション事業の開始などを予定しております。また将来

の地域医療を担う研修医や医学生の実習体制を整え、早期に受け入れができるよう取り組みます。地域医療を支える市立病院の役割は、ますます重要なものとなります。今後、より一層信頼される地域医療の構築に取り組みます。

平成30年度は「第2次御前崎市総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を目に見え

る形で推進するため、職員一人一人となって取り組みます。今後とも市民の皆さまと力を合わせ、持続可能なまちを目指すとともに、本市のさらなる発展につなげていきます。